

神奈川県立金沢支援学校 学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	神奈川県立金沢支援学校 第1回学校運営協議会・学校評価部会・学校設置部会		
開催日時	令和7年6月11日（水）		
開催場所	金沢支援学校 会議室		
（役職名） 出席者	令和7年度金沢支援学校 学校運営協議会委員 11名（本校校長を含む） 令和7年度金沢支援学校 学校運営協議会事務局教職員 10名		
次回開催予定日	令和7年10月22日（水）予定		
問い合わせ先	金沢支援学校 副校長 川島 結子 電話 045-770-0456 Fax 045-775-4121		
下欄に掲載するもの	議事録	議事概要とした理由	
審議(会議)経過	<p>内容：令和6年度金沢支援学校 学校運営協議会委員 11名から、会長の選任および今年度の学校運営に係る1～2について承認をいただきました。3について事務局から説明し、ご意見をいただきました。</p> <p>1 学校運営協議会（運営計画、令和7年度金沢支援学校グランドデザイン・学校運営組織、令和6年度学校施設等整備実績報告）</p> <p>2 学校評価部会（学校教育計画、令和7年度学校目標、各部門・学部・グループの取組計画）</p> <p>3 切れ目ない支援部会、学校防災部会</p>		
会議資料	<p>・令和7年度第1回学校運営協議会・学校評価部会 次第</p> <p>・学校運営協議会委員名簿</p> <p>資料1 神奈川県立学校に設置する学校運営協議会の運営等に関する要綱</p> <p>資料2 学校運営協議会運営計画書</p> <p>資料3 令和7年度金沢支援学校グランドデザイン</p> <p>資料4 令和7年度金沢支援学校 学校運営組織</p> <p>資料5 令和6年度学校施設等整備実績報告</p> <p>資料6 学校教育計画</p> <p>資料7 令和7年度金沢支援学校 学校目標</p> <p>資料8 各教育部門、グループの学部教育目標等</p> <p>資料9 切れ目ない支援部会</p>		
議事録	<p>1 学校長挨拶</p> <p>日頃のご協力に感謝申し上げます。この協議会の枠組みと進行方法を今年度より変更し、「学校評価部会」「切れ目ない支援部会」に加え、新たに「学校防災部会」を設置します。忌憚のないご意見をお願いいたします。今年度、最も重点を置いて取り組んでこうと考えている事項は2点、教育活動を充実させるための「働き方改革の推進」と、地域に理解していただきお力を貸していただくための「共生と防災の推進」です。本日は限られた時間ですが、よろしくお願いいたします。</p>		

2 委員及び事務局（学校職員）自己紹介

茅ヶ崎市教育委員会委員 星槎大学非常勤講師 伊藤甲之介 委員
海洋電子工業株式会社 代表取締役社長 榎本英雄 委員
東芝ウィズ 管理部長 新徳恭久 委員
いそご地域活動ホームいぶき 施設長 溝渕崇 委員
富岡東中学校長 矢田弘 委員
金沢総合高等学校 校長 栗原剛志 委員
横浜氷取沢高等学校 校長 坪内幸子 委員
並木第一小学校 校長 松崎由里子 委員
金沢シーサイドタウン富岡団地 自治会長 古川正毅 委員
金沢支援学校PTA 会長 相澤鈴子 委員
（ご欠席）横浜市南部地域療育センター通園課 園長 萩原実奈子様
川島副校長、北之迫教頭、原島教頭、山本事務長、教務 新船GL、連携支援
安藤GL、総務 柴田GL、指導健康 田尾GL、 A部門 三宅部門長、B高等部
小原学部長

3 会長選出 伊藤甲之介委員 ⇒承認

4 学校運営協議会

（１）学校運営協議会運営計画（資料１ 資料２）

要綱・運営計画については、事前配付済

（２）今年度の学校運営について（資料３）

*令和７年度金沢支援学校グランドデザイン（資料３）

文字少なくシンプルでわかりやすいものに変更

*学校運営組織（資料４）

児童生徒支援が連携支援グループに変更

*令和６年度学校施設等整備実績報告（資料５）

山本事務長より昨年度５件の実績報告

- ・２階音楽視聴覚室の普通教室化 ※補足説明あり
- ・照明のLED化
- ・厨房機器の更新
- ・機械警備を人感センサー移動によるポジションの見直し
- ・電話機器 リース 長期契約 オート機能導入

（校長）※について 普通教室整備は生徒増に伴うもの。児童生徒数は19年前に比べて全県で２倍、知的障害教育部門の高等部生徒が増えている。

質疑（・）応答（→）

・整備工事 相見積もりを取って行っているか。

→神奈川県の手続きの規則に則った手続きで行っている。「これ以上は入札」「これ以下は見積もり比較」等の手続きを踏んでいる。

・経緯が分かる書類の提示を望む。

→また改めてご提示する。

・神奈川県にこんな予算があるのかと感じた。児童・生徒が増えているとのこと。生徒の入学を断ることはあるのか。

→小中学部は義務教育なので受け入れる。高等部の知的障害教育部門について、学校によってはキャパを超える場合もあり、抽選が行われる。全県のどこかでは入学できるようにしている。

5 学校評価部会

(1) 学校教育計画（資料6）

学校のミッション R6→R9

(2) 令和7年度学校目標（資料7） 視点5つ

- ・ICTは一人1台端末、電子黒板等が整ってきた。職員研修を引き続き行う。
- ・専門職の活用をさらに強化する。分教室にも生徒の実態把握で定期訪問し、生徒の教育に活かす。専門職の活動を保護者にも配信する。本校にはPT（理学療法士）とST（言語聴覚士）が配置されている。
- ・職員研修に力を入れていく。保護者への情報発信を充実させる。
- ・一人ひとりがセンター的機能を発揮することを目指す。教材教具展示等地域全体のレベルアップにつなげていく。
- ・地域の方と共にDIG研修を今年も行い、HPで発信していく。保護者へも伝わるように工夫する。働き方改革については整理、効率化に努める。

(3) 各部門・学部・グループのより（資料8）

A部門

53名が在籍。系統性のある指導を行っている。目指す進路先は多様。指導に関しては、ICTの活用、スイッチも含めて充実させていく。地域の方に知ってもらい、今年も防災の授業と一緒に進めていき、さらにカフェの利用や小学校・総合高校等同世代の交流も積極的に行いたい。

B部門 小学部

目標をもとに、発達段階を考えた系統性のある指導を行う。地域との協働 ICTの活用、専門職との連携などに重点を置いて取り組む。

B部門 中学部

一人ひとりのニーズに応じた指導を行う。専門職との連携 保護者、他学部とも連携をすすめる。

高等部本校

93名が在籍。地域と協働した学習活動を実践するとともに、教員が変わっても続けられるようにしていく。生徒の進路指導を充実させるために、教員対象の研修会を設定したり、職業の授業の見直しをしたりして、進路指導の充実につなげていく。

横浜水取沢分教室

45名が在籍。卒業後を見据えて社会人としての生活から逆算し、保護者と共有しながら学習活動をすすめている。学年を超えた保護者の連携、先輩の保護者との連携も充実させていく。

教務グループ

教育課程チームと教育事務チームがある。業務整理をし、働き方改革をすすめていく。議題の共有方法を見直し、teamsでチーム員が確認できるようにしていく。チーム会は遅くとも17:30までには終わらせられるようになってきた。業務改善は教員が楽になるためではなく、児童・生徒の学習活動充実のために各チームですすめていく。

指導・健康グループ

児童・生徒の学習活動を大きな木に例えると、根っこを担当しているのがこのグループ。医療的ケアの安全、保健・給食、アレルギー対応、スクールバスの運行など学校全体に関わることから、個人の健康面まで多岐にわたっている。当たり前のことから細かいルール、マニュアル等、情報が多い中、精査の仕方、共有の範囲や方法など、扱い方について見直していきたい。また、HPで学校の教育活動が安全安心であることを発信していきたい。

総務グループ

避難訓練については地域の方の参加を今年度もお願いしたい。情報管理については、電子黒板も配備され、さらなる活用をすすめていく。施設管理チームは引き続き環境整備に取り組む。会計については、カタログを活用し、見積もりを取る流れを基本とする。電子決済で手続きし、適正な処理を目指す。

連携支援グループ

地域支援チームは組織としての支援を目指す。進路チームは自立と社会参加にむけて、小学部の段階から意識できるよう情報発信していく。緊急対応訓練についてはチームとして取り組み、HPで発信していく。広報渉外は、さまざまな場面でセンター的機能を発揮するようにしたい。

質疑（・） 応答（→）

- ・指導健康グループの個人情報の扱いについて、小→中などの引継ぎは行われているか。
→看護師、養護教諭を交えての引継ぎを行っている。
- ・情報をどこまで広げるかもそうだが、残すことも大事。うまくやってほしい。
→医療的ケアやアレルギー対応などは引継ぎが重要。ケアができる人が異動してしまうと新年度スタート時に厳しくなる。医療的ケアは人事配置が大事。
- ・安全防災について、一人ひとりのヘルメットは自分で購入し持参しているのか。会計管理について、ネット決済とはどのようなものか。
→ヘルメットは一人ひとりに合わせて用意してもらっている。会計管理は県が推奨するカタログ購入を基本としている。横浜銀行のネット決済を使っている。
- ・何気ない会話から情報共有することは大事なこと。そのような視点でなされていることは良い。支援もチームで取り組む「チーム支援」は全国的に言われている。横浜市の小学校でも「チーム学校」の取組が始まっている。
- ・資料7に進路のことが書かれてある。支援教育推進会議では小学校の先生が何を目標に教えたらいいかわからなく、中学校も同じ。そんな中、視点を持って取り組まれているのは良いこと。
- ・HPに触れる工夫をしているか。二次元コードをいろいろなところに貼るのはどうか。若者はすぐに写メを取って情報を得ている。地域にいかにして発信するかの工夫が必要。
→発信に関しては充実させてきている。二次元コードの視点はなかったので取り入れたい。PTAもHPにコーナーがあり、情報発信している。

→正門横の掲示板に、二次元コードを掲示する。

6 設置部会

(1) 切れ目ない支援部会

「児童生徒にとってのいまとこれからの支援のありかた」は縦の支援のことを指し、「地域とともに行うこれからの支援の具体案を探る」は横の支援を指している。

「切れ目ない支援」をキーワードにして意見を伺いたいと考えている。学校と関連施設の相互理解については、少し足りないのではないかという意見が出た。支援が必要な子どもにはどんなことができるのか、多くのご意見をお願いしたい。

意見交換

- ・「切れ目ない支援」は大事なこと。生徒がどのような学校生活を送ってきたかを知ることが大事。様々な進路先があり、一人ひとりの居場所を作っていくことが必要だと考える。

(2) 学校防災部会

- ・今年度が始まって2ヶ月だが、防災研修や避難訓練等に加えて授業でも防災について取り組んでいる。落雷や洪水、熱中症など児童生徒の身の安全に対する意識が求められている。
- ・校内D I G研修にP T Aの方に参加してもらい、隣の第一機動隊の方にも参加を呼びかけている。地域の放水訓練に昨年参加予定だったが、天候不良で参加できなかった。今年も予定している。
- ・スクールバス内の装備が脆弱なため、災害時に向け備えを見直していきたい。

意見交換

- ・スクールバスにどのような備品が必要か。

→おむつや災害時用トイレなどを想定している。

(3) 部会に限らず、全体を通してのご意見

- ・在学中は縦横の繋がりがあるが、卒業後は情報量が減ってしまう。保護者懇談会は先生の話聞いて終わりとなってしまうので、もう少し充実させてほしい。また、学校HPに分教室の情報が少ないので分教室のことを載せてほしい。
- ・所属では近隣と防災訓練を行っている。
- ・保護者からは進路や卒業後のことが心配という声があう。進路情報を早い段階で見せることが保護者の安心につながると思う。

7 会長挨拶

この後メールでのアンケートがくることになるようですので、ご協力ください。地域にひらくこと目指して、引き続き応援していきます。本日はありがとうございました。

以上